

かつてここから見た瀬戸電堀川駅

名鉄瀬戸線終点旧堀川駅（現在地付近から東方面）



瀬戸電（現在の名鉄瀬戸線）は瀬戸で作られるやきものの輸送のために、明治三十八年（一九〇五）に「瀬戸自動鉄道株式会社」により瀬戸駅から矢田駅まで開業したのがはじまりで、翌年には大曽根駅まで延伸されました。

開業当初は、フランス製セルプレー式蒸気動車で運行していましたが、明治三十九年（一九〇六）に社名を「瀬戸電気鉄道株式会社」と変更し、翌年には電気動力に転換しました。

その後、明治四十四年（一九一一）に堀川の水運を利用するために、大曽根駅から堀川駅まで延伸されました。

名古屋城の外堀内を通る土居下駅から堀川駅までの区間は「お堀電車」とも呼ばれ、親しまれていました。

名古屋と瀬戸を結び、瀬戸の陶磁器産業を支えた瀬戸電ですが、その後、水運から陸運が主体となっていくにつれ貨物需要は減少し、昭和五十一年（一九七六）の栄町駅乗り入れ工事に伴い、東大手駅から堀川駅までの区間は廃止となりました。

現在地付近から東を見た名鉄瀬戸線旧堀川駅の様子（昭和三十年撮影）
（樹林舎「名古屋今昔写真集1巻」より（撮影者＝楠正昭氏））



堀川を使った水運の様子
（瀬戸蔵ミュージアム所蔵）



瀬戸から瀬戸電で運ばれ、海外に輸出されたやきもの
吹染付芥子図輪花皿 千峰園製
（瀬戸蔵ミュージアム所蔵）



現在地から見て東側にあった堀川駅から御園橋の下を通る外堀内に電車が走っていました。

平成三十年（二〇一八）三月 名古屋市中区役所